



# おやゆび姫

ある日、一輪のチューリップの花が咲きました。

不思議なことに、花の中には小さな女の子が座っています。女の子は、親指ほどの大きさしかありませんでしたので、「おやゆび姫」と名付けられました。

ある夜、おやゆび姫がクルミのベッドで眠っていると、大きなヒキガエルが部屋に入ってきました。

「なんてかわいらしい。息子のお嫁さんにしてよう。」

おやゆび姫を、ベッドごとさらってしまいました。

目覚めたおやゆび姫がいたのは、見知らぬ沼のハスの葉の上。おやゆび姫は怖くて悲しくて、泣き出しました。

それを見てかわいそうに思った魚たちが、ハスの茎をかみ切って、おやゆび姫を逃がしてあげました。おやゆび姫が乗ったハスの葉は、ゆらゆら川を流れて行きます。チョウが飛んで来て、葉を引っ張ってくれました。

ところが、今度はコガネムシがやって来て、おやゆび姫をさらってしまいました。でも、コガネムシの仲間たちは、自分たちとは姿が違うおやゆび姫を嫌がったので、コガネムシはおやゆび姫を森に置き去りにしてしまいました。

おやゆび姫は、独りぼっちで森の中で過ごすことになりました。夏が過ぎ、秋が過ぎ、寒い冬がやってきました。おなかはぺこぺこです。そんなとき、野ネズミの家を見付けました。

「すみませんが、食べ物に分けてくれませんか？」

「おやまあ、かわいそうに。さあ、中にお入り。」

こうしておやゆび姫は、親切な野ネズミのおばさんと一緒に暮らすことになりました。

ある日、野ネズミのおばさんの家に、モグラが訪ねて来ました。モグラは、おやゆび姫を一目で好きになってしまい、結婚を申し込みました。

野ネズミのおばさんは、  
「モグラさんはお金持ちだから、結婚すると幸せになれるよ。」

と、大喜び。でもおやゆび姫は、嬉しくありません。モグラはお日様を嫌い、ずっと土の中で暮らしているので、結婚すると、二度とお日様を見ることができなくなるからです。

そんなある日、おやゆび姫は、土の中の通路で、けがをしたツバメを見付けました。毎日おやゆび姫が世話をしたおかげで、ツバメはすっかり元気になりました。

「あなたのおかげで、また飛べるようになりました。一緒に南の国へ行きましょう。南の国は、とってもいい所ですよ。」

しかし、おやゆび姫は、野ネズミのおばさんを残しては行けない、と断りました。

いよいよ、モグラと結婚する日。おやゆび姫は悲しくて仕方ありません。

そこへ、あのとき助けたツバメがやって来て、言いました。

「一緒に南の国へ行きましょう。」

おやゆび姫は決心して、ツバメの背中に乗りました。ツバメは、空高く飛んで行きます。到着した南の国は暖かく、たくさんのお花が咲いています。その中の白い花の中に、王子様がいました。

王子様は、おやゆび姫に言いました。

「この花の国で、一緒に暮らしませんか？」

おやゆび姫は喜んでうなずきました。

こうして、明るいお日様が降り注ぐ南の国で、二人はいつまでも幸せに暮らしました。

(おしまい)